

葉栗連区 地域づくり協議会だより

令和6年3月(89号)



葉栗 HP

発行日：令和6年3月1日 発行者：葉栗連区地域づくり協議会
一宮市大毛字南出120番地（葉栗出張所内） 電話：28-9001
ホームページ：<https://138haguri.org>（スマホからは上記 QR コードより）

葉栗連区の人口と世帯数（2024.1.1 現在）人口 16,220 人（男 7,935 人 女 8,285 人）世帯数 6,897 世帯

☆ 今年も大丈夫？ 『木曾川堤（サクラ）』 ☆

3月16日（土）～4月7日（日）まで138タワーパークさくら祭りが開催されます。葉栗連区には、名勝及び天然記念物に指定されている『木曾川堤（サクラ）』があります。今から139年前の明治18年（1885）に一宮市北方町から江南市草井町まで約9kmにわたり、約1,800本のエドヒガンザクラ、シダレザクラ、ヤマザクラなどが植樹されたのが始まりです。しかしながら風水害や樹木の老齢化により現在は、624本までになってきています。この状態が続けば『木曾川堤（サクラ）』の存在が危うくなります。今年2月には、倒木の危険がある桜を中心に65本が伐採されました。

昭和2年（1927）8月11日に名勝及び天然記念物に指定されてから100年を迎える令和9年（2027）に向けて、葉栗連区各団体の協力のもと、さらなる保全活動を進めていきたいと思っております。

※木曾川堤（サクラ）の推移（一宮市地域）

	合計	残存率	エドヒガン	シダレザクラ	ヤマザクラ	その他
平成13年現在	960本		—	—	—	—
うち明治からの桜	417本		—	—	—	—
うち平成13年補植	543本		294本	150本	83本	16本
令和5年現在	624本	65.0%	291本	167本	68本	98本
うち明治からの桜	328本		144本	77本	19本	88本
うち補植した桜	296本	54.5%	147本	90本	49本	10本



令和5年3月撮影



枯れた桜



桜のない堤

☆ 無病息災を願い 左義長 ☆

左義長とは、小正月といわれる1月15日ごろに行われる火祭りのことです。

左義長は、もともと「毬杖(ぎっちょう)」という、木のまりとつえを使った子供の正月遊びのつえを、宮中で3本立てて焼いた「三毬杖(さぎちょう)」が由来といわれています。

旧暦では小正月が新年最初の満月の日にあたり、満月と神聖な火による浄化の力で、人々の1年間の災いを払い、豊作や商売繁盛、家内安全、無病息災、子孫繁栄を願う行事で「どんど焼き」とも言われています。今年も穏やかな年でありますように。



坂手神社 (佐千原)



若栗神社 (島村)



大毛神社 (大毛)



天神社 (笹野)



津島神社 (小路)



八劔神社 (更屋敷)

←鏡餅を焼いて食べる

☆ みんなで楽しく 葉老連研修旅行「豊川稲荷初詣・いちご狩り」 ☆

1月23日（火）に葉老連区老人クラブ連合会の研修旅行を行いました。募集人数70名に対し、85名の応募があり、2台のバスが満席状態となりました。天候にも恵まれ楽しい旅行となりました。予定通り出発し、最初の目的地「豊川稲荷」で初詣の参拝を済ませ、その後、豊橋市内のホテルでランチバイキング。昼食後は、湖西市にある「豊田佐吉記念館」へ。豊田佐吉生家や展示室の見学、ビデオ観賞を行い、次の目的地「平松観光アグリズ浜名湖（いちご狩り）」へ向かいました。

いちご狩り会場に到着し、中に入った瞬間に「驚き」と「感動」。大きないちごが大量に、しかもきれいに整列して我々をお出迎えしていました。我々一同が束になってかかっても、とても食べきれません。完敗です。でも笑顔が一杯、お腹もまたまた一杯に。

今回の旅行での豊田佐吉記念館で観賞したビデオは、豊田佐吉が少年時代から織機にかける想いと覚悟、周りの人から変人扱いされ、また裏切られても自動織機の発明まで頑張り続けた努力に、感動してしまいました。高齢者となった私たちには、できないことが多くなって来ていますが、でも、頑張る気持ちだけは、忘れないでいたいと思います。最後に、豊田佐吉のことは『障子を開けてみよ 外は広いぞ』で終わりたいと思います。

《寄稿：葉老連会長 榊原健治》



☆ マイペースで楽しみました！ いちのみやタワーパークマラソン ☆

1月8日（祝）、第22回いちのみやタワーパークマラソンが、光明寺緑地公園サイクリングコース周辺で行われました。一宮市光明寺球技場を出発点として、マラソンは10km・5km・3kmとジョギングは2kmで、約3,500人が参加しました。

寒さを感じる好天の中、思い思いのコースをタイムを競う人、親子でゆっくりジョギングする人、仮装して走る人など、みなさん元気いっぱいタワーパークマラソンを楽しんでいました。



歴史探訪 葉栗小学校編②

「安全」は、すべてに優先する

怖いもののたとえに「地震・雷・火事・オヤジ」と言いますよね。今年のお正月には能登で悲惨な大地震が発生しました。また近年は、たとえの中にある家庭内のオヤジの地位低下で、代わって突然飛んでくるミサイルがあてはまるのではないのでしょうか。今も世界各地で紛争がおき、多くの子供たちも戦争の犠牲になっています。実は、葉栗小学校でも 1945 年（昭和 20 年）太平洋戦争中に、事務室と炊事室付近に焼夷弾が着弾するということがありました。幸い早く消火され被害は大きくなかったようです。

しかし、爆弾が飛んできては勉強どころではありません。社会の宝である子供たちが安心して勉強ができてこそ、将来の繁栄があると思います。

戦後の 1956 年（昭和 31 年）2 月、北校舎新築の際に、現在の南門の前に流れる宮田用水路の上にコンクリート製の橋ができました。架け替える前の木造の橋の名は「琢磨橋」でした。「琢磨」とは、学問などに励み向上に努めることの意味があります。そして、新しい橋は「まなびばし」と命名されましたが、今では用水路にフタがされ道路になっています。その名ごりに、南門の柱には「まなびばし」の石銘板が残されています。

「学びや」が、誰もがいつまでも安全で安心できる世でありますように、橋の姿は私たちの目に映っていないけれど、先人の願いがハッキリと見えるようです。

<歴史アレコレ>

※1947 年（昭和 22 年）4 月 みそ汁給食が始まる

※1968 年（昭和 43 年）3 月 給食が共同調理場から供給開始



「まなびばし」の石銘板



最近の給食から



昭和 39 年春の校舎と「まなびばし」



現在の南門と用水路上の通学路



中庭の二宮金次郎像



像の柵の鉄棒は戦争で抛出